



スロヴァキア国民議会選挙と EU 東方拡大

研究員 安部 健一郎

ドイツの総選挙が9月22日に予定されており、その動向が注目されているが、同時期の9月21日、22日両日には中欧のスロヴァキアでも国民議会選挙が予定されている。EU加盟交渉中の人口540万人の小国における選挙であるが、その選挙の焦点は、今後のEU拡大実現までの問題を象徴している点で、注目を要しよう。

現在、中東欧10カ国が本年中の加盟交渉合意、2004年のEU加盟を目指して、加盟交渉に臨んでいる。スロヴァキアはそのなかにあつて、加盟交渉のスタートでは第一陣に遅れたものの、EU現行法制であるアキ・コミュニテール受入れ交渉では31分野中27分野の交渉を終了させ、交渉が最も進捗している国の一つとなっている。しかし、順調な加盟交渉と平行して、企業、銀行の民営化・リストラなど経済改革が急速に進められているが、それが失業問題を深刻化させるなど、必ずしも国民生活の向上に直接つながっていないという側面も指摘できる。

そうした背景から、選挙を目前に控えた各種世論調査では、現政権下で野党であるフィコ氏率いるSmer党と前首相メチアル氏率いる民主スロヴァキア運動(HZDS)が、いずれも16~20%の支持率で上位争いを演じている。

前首相メチアル氏は、かつてナショナリズム・権威主義的政権運営を行った結果、スロヴァキアの国際的孤立を招き、同国はEU第一陣加盟交渉の対象外となった経緯がある。また、ポピュリスト的立場を取るフィコ氏は、EU加盟交渉において、可能な限り有利な条件を獲得するために、エネルギーを始めとする既に交渉が終了した分野で、再交渉をする意向を表明している。

EU加盟を最優先課題に掲げている同国ではメチアル氏の政権復帰の可能性は少ないが、現連立与党を始め、いずれの政党も単独では議席の過半数を得られない見通しであることから、消去法的にSmer党が連立与党第1党となりフィコ氏が首相になる可能性は充分にある。この場合、同国の今後の加盟交渉進捗に影響が出る可能性も否定できない。

一方、EU現加盟国の側でも東方拡大を控え、移民増加やナショナリズム高揚を背景として、高失業率などに対する不満を巧く取り入れてきた右派回帰の流れが拡大し、今年6月のフランス総選挙ではその傾向がより鮮明となった。ドイツにおいても、戦後のドイツ人放逐を定めた布告の撤回をチェコ、ポーランドにEU加盟の前提条件として求

めるなど、シュトイバー首相候補がナショナリズムに訴える形で一定の支持を得ている。こうしたスロヴァキアの選挙動向や西欧での右旋回は、EU 拡大の理想と、自国内における「今そこにある問題」解決を優先するという現実的な思考の対立を示唆していると言えよう。EU のさらなる拡大・深化のためには、政治や経済における各国間の協調と同時に、市民レベルにおいて統一に向けてのより強い共通意識の醸成が図られる必要がある。

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しく願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2002 Institute for International Monetary Affairs (財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokucho 1-Chome, Chuo-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話：03-3245-6934 (代) ファックス：03-3231-5422

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <http://www.iima.or.jp>